

(2) 実践例

情報や情報技術が生活や産業で果たしている役割

学年・教科	5年社会科	単元名(本時)	くらしをささえる情報(4-5/10)
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活に影響を及ぼしている情報について関心を持ち、必要な情報を見分け、活用し、生活に生かそうとする。 ○ 情報が生活や産業に及ぼしている影響について考え、自分の生活の中で情報活用について適切に判断できる。 ○ 必要な情報を収集・判断、表現・処理・創造し、目的に応じた方法で発信・伝達できる。 ○ 情報がわたしたちの生活や産業に役立っていることや情報を主体的に活用することの大切さが分かる。 		
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報のよい点や問題点について考えることができる。 		
主な学習内容		教師の支援	評価
1. CMの映像を見て、役立ったことや失敗したことを話し合う 2. 本時のめあてを確認する		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分も情報の受け手として情報社会に関わっていることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習とつなぎながら本時に臨もうとしている。
情報は、どのようなところに注意して見分ければよいのか調べよう。			
3. ニュース番組と新聞記事を比較して、感想を話し合う 4. 2社の新聞記事を比較して、違いや意図について話し合う ・写真の違い ・内容の違い ・表現の違い ・レイアウトの違い ・取材日時の違い		<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報手段の特性に気づくことができるようにする ○ 同じ出来事を伝えている2社の新聞記事を提示する。 ○ 様々な観点から記事の違いを比較させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2社の新聞記事の違いを様々な観点から見つけることができる。
5. ニュースや新聞の誤報について知らせ誤った情報で苦しんだ人の気持ちについて話し合う ○ 松本サリン事件の例 6. 情報の見分け方をまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 発信者の責任について考えることができるようにする。 	
いつ出された情報か ・どこで出された情報か ・だれが出した情報か 何についての情報か ・その情報の目的は何か ・事実を確認できる情報か			<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の受け手として自覚を持つことができる。
7. 本時の学習の感想を書き、発表する。			
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞記事の比較ではいくつかの違いを見つけ、情報を見分けることの重要性を感じていたが、内容に違いが生じる理由については、子どもたちだけでは深まらなかった。 ○ 情報社会に関する関心は、生活経験の違いなどから大きな個人差が見られた。 		

情報の真偽の確認と有害情報への意識

学年・教科	6年総合	単元名(本時)	その情報正しいの？(1/1)
本時のねらい	<input type="radio"/> インターネットの情報は、真偽を確かめる必要があることを知る。 <input type="radio"/> 自分に必要のない情報に対して、避ける態度を身につける。		
主な学習内容		教師の支援	評価
1. 本時のめあてを確認する			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> インターネットの情報を取り扱うときに気をつけなければならないことを考えよう </div>			
2. HPを見る。 ・見た感想を書く		<input type="radio"/> 教材用のHP(教師が作成)をあらかじめ用意しておく。 ・うそ情報 悪口 ・メル友募集 アンケート 等	
3. インターネットの情報を利用するときの問題点を話し合う。 ・情報の真偽 ・HPはだれでもつくることができる ・自分に必要な情報を選択		<input type="radio"/> インターネット上の情報の特性に気づかせる。 <input type="radio"/> 危険な情報に出会ったときの対応についても考えさせる。	<input type="radio"/> インターネットの情報を利用するときの問題点が理解できる。 <input type="radio"/> 危険な情報に出会ったときの対処方法を理解できる。
4. 情報の真偽と有害情報についてまとめる。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> インターネットの情報は、すべて正しいと判断するのは危険であるので、複数の情報や専門家などの意見などと比べ確かめる必要がある。また、自分に本当に必要な情報か考え、危険な情報には近づかない。 </div>			<input type="radio"/> 情報を受ける心構えを持つことができる。
5. 本時の感想を書き、まとめる			
子どもの反応	<input type="radio"/> 学習を通して、インターネットの情報を扱うときの注意点は理解していたようだった。学校では、フィルタリングをしているので有害情報に触れることがほとんどないが、調べ学習等で家庭でインターネットを使用することが多い。そのため、日常的に指導していく必要を感じた。		

情報モラル (ネチケット)

学年・教科	4年総合	単元名 (本時)	情報モラル (ネチケット)を考えよう(2/3)
単元のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちの暮らしの中でやりとりされる情報に関心を持ち,情報機器を適切に使おうとする態度を養う ○ 電子メールや掲示板などの発言では相手に不愉快な思いをさせないように心がける。 ○ 他の人が所有するファイルを勝手に開いたり改ざんしたりする事はマナーに反することを理解する。 		
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手紙や電子メールでは相手に不愉快な思いをさせないようにマナーを守らなければならないことに気づく。 		
主な学習内容		教師の支援	評価
1.手紙や電話などを受けたときの経験を話し合う 2.本時のめあてを確認する		<ul style="list-style-type: none"> ○手紙や電話での情報のやりとりでのうれしかったことを想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの経験を想起し,情報の功罪を考えている。
電子メールのエチケットについて考えよう			
3.キューブネットのメールを使い,情報のやりとりをする。		<ul style="list-style-type: none"> ○キューブネットの使い方を説明する * 非公開の配信相手 2人を決めておく。そのほかは自由とする。 * いたずらメールを送っても可 	<ul style="list-style-type: none"> ○電子メールの使い方を覚え,相手にメールを配信している。 ○受け取ったメールを読み,返信している。
4.メールを受け取った時の感想を発表する。 ・うれしかったこと ・いやだったこと		<ul style="list-style-type: none"> ○送り主が不明ないたずらメールの存在を教える。 	
5.電子メールの効用とエチケットについて話し合い,まとめる ・必要な情報がすぐに遅れる。 ・自分が発する情報には責任を持ち,相手に不愉快な思いをさせないことが大事			<ul style="list-style-type: none"> ○電子メールのいいことと困ることを考え,発言しようとしている。 ○情報の上手な活用とネチケットの必要性に気づいている。
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電子メールは初めての経験の子どもが多く,楽しく活動ができた。 ○ 実際に不愉快なメールを受け取った子どもの感想から,ネチケットに気づいた。 		

個人情報の保護

学年・教科	2年 学校裁量	単元名 (本時)	個人情報ってなんですか？ (1/1)
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人情報の内容を知る。 ○ 個人情報の大切さを知り守ろうとする意欲を持つ。 		
主な学習内容		教師の支援	評価
1. 学習内容を知る。 ○ 個人情報という言葉から今日のめあてを知る。		○ 「個人情報」の言葉から個人情報が一人ひとりの問題であることを意識させる。	○ 本時学習に意欲を持って取り組もうとしている。 ○ 個人情報に関心を持ち、自覚することができる。 ○ 個人情報を守ろうと意欲を持っている。
個人情報がどんなものかを知ろう			
2. 個人情報について考える。 ○ 個人情報はどんなものにあるのかを知ろう ・ 名前や住所、電話番号。 ・ メールアドレス ・ IDやパスワード ・ 顔写真など ○ 個人情報が漏れることで、どんな問題が起きるのだろう ・ 電話番号が漏れたために起こった問題 ・ IDやパスワードがわかったために起こる問題		○ 日常生活の中で使われている具体例を示しながら、個人情報を知らせる。 ○ 個人情報が掲載されてしまったために起こった事件・事故の具体例を紹介する。	
3. 自分たちの身の回りの個人情報を調べて、個人情報を守ろうとする意欲を持つ。		○ 身の回りにある個人情報を確かめ、むやみに他人に知らせたり、メールや掲示板に書かないようにすることを確認する。	
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りに個人情報が数多くあることを知り、その大切さについて感じていた。 ○ 個人情報が、自分たち自身にも関係することを知り、身近なものとして、関心を持つことができた。 		

著作権

学年・教科	1年学校裁量	単元名(本時)	「ちょさくけん」ってなんだろう(1/1)
本時のねらい	<input type="checkbox"/> 著作権について知る。 <input type="checkbox"/> 書籍や絵画には著作権があることを知る。		
主な学習内容		教師の支援	評価
1.本時のめあてを知る。			○めあてが言える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「ちょさくけん」ってなんだろう</div>			
2.著作権について知る。 <input type="checkbox"/> 「ちょさくけん」は、つくった人を守るきまりである		○1年生の発達段階を考慮し、分かりやすい平易な言葉で示す。	○著作権について書いてあることを言える。
3.著作権のあるものを身の回りから探す。 ・図書館に行って、cマークを本から探す。 ・ほとんどの書籍にcマークがあることを知る。		<input type="checkbox"/> 書籍の終わりの方にあることを知らせておく。1年生では実際の場所を知らせるのもいいかもしれない。 <input type="checkbox"/> cマークがない書籍については代わりに文章などで著作権があることが示してあることを知らせる。	○cマークをさがすことができる
4.自分たちの書いた絵には、著作権があるかどうかを考える。 <input type="checkbox"/> 自分たちの描いた絵にも著作権がある。だから、かってにまねをしてはいけない。		<input type="checkbox"/> 実際に自分たちが描いた絵を示し、身近な問題として捉えさせる。 <input type="checkbox"/> 絵だけでなく、作文も同様であることを知らせる。	○自分の考えを挙手などにより、はっきり示す。
5.学習のまとめをする。			○学習のまとめが言える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本や絵には「ちょさくけん」がある。</div>			
子どもの反応	<input type="checkbox"/> 書籍には著作権があると考えた子どもたちも、自分たちが描いた絵や書いた作文にも著作権があることを知り、驚きがあった。 <input type="checkbox"/> 学習の後、学級にある書籍等を調べる子どもがいて、著作権に対する関心が高まった。		

健康への影響

学年・教科	3年保健	単元名(本時)	正しいしせいで(1/1)
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ パソコンに向かうときの正しい姿勢を知る。 ○ 姿勢と健康についての関連を知る。 ○ パソコンに対して正しい姿勢になるように、イスの高さやディスプレイを調節することができる。 		
主な学習内容		教師の支援	評価
<p>1.VDT作業について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コンピュータの画面のこと。 ○ ディスプレイといわれること。 <p>2.パソコンを使うときの姿勢で、気をつけなければならないことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面から目を離す。 ・背筋を伸ばす。 ・足をきちんとつける。 <p>3.正しい姿勢になるように、イスや画面の調節をする。</p> <p>4.キーボード練習をやる。</p> <p>5.本時の感想を発表する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ○ VDT,VDT作業について、簡単に説明する。 ○ 現在は、いろいろな仕事の場面でVDT作業が行われていることを知らせる。 ○ ノートなどに、思いつくままに書かせる。 ○ 基本的にどれも認める。 ○ キーボードに手を置いたときの肘の角度など、子供が気付かない部分は教師が補足する。 ○ なぜ良い姿勢をしなければならぬかについても質問し、補足的に説明をする。 ○ 資料を提示し、VDT作業の時の正しい姿勢を教える。 ○ 足の裏をつけるより、肘の角度を優先することを告げる。 ○ 練習を交代する時間を指定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的にどのような作業があるか考えている。 ○ 教室での姿勢や生活の中での様々な場面と関連づけて考えようとしている。 ○ 近くの席で、お互いの姿勢を見合せて、正しい姿勢をしようとしている。 ○ 交代で、姿勢をチェックしている。 ○ これから気をつけようとするところが含まれている。
子どもの反応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勉強しているときや、テレビを見ているときの姿勢も気をつけようと思った。 ○ ひじのことや画面を見る方向のことなどは今まで知らなかったので、これから気をつけようと思った。 		

* 参考資料：VDT作業の手引き(人事院職員局健康安全問題研究会/監修)